

たしろいせき 田代遺跡

現地説明会資料

平成24年6月16日(土) 10:00～

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

【田代遺跡の概要】

田代遺跡は、八戸市の中心部から約1.3km離れた、階上岳から連なる標高約215～225mの丘陵地に立地します。平成16・17・21年度に青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われ、縄文時代中期末から後期初頭を中心とする集落跡であることが明らかになりました。

八戸市では、平成23年度に第1地点の試掘調査を行い、多数の遺構・遺物がみつかったため、同年本調査を実施しました。今年度は、昨年度に引き続き第1地点の調査を行っています。



第1地点拡大図



【調査要項】

遺跡所在地：青森県八戸市南郷区大字島守字番屋17-1ほか

調査目的：個人農地造成に伴う緊急発掘調査

調査期間：平成24年4月25日～6月30日(予定)

調査面積：2700㎡

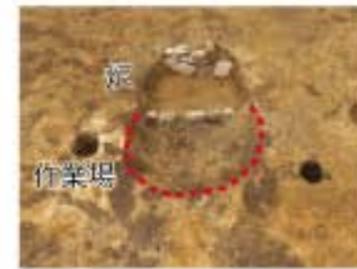
調査担当者：八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

【平成24年度調査要項】

今年度は、調査面積2,700㎡を調査しました。今回の調査でも、沢に面した南向きの緩やかな斜面に縄文時代中期末～後期初頭の竪穴住居跡が多くみつっています。また、弥生時代前期・中期の竪穴住居跡もみつかりました。弥生時代中期の竪穴住居跡は、青森県内では調査されている例が少なく、今回みつかった住居のように全体の規模・構造が明確に分かるものは珍しいため注目されます。

【縄文時代中期末～後期初頭の集落跡】

田代遺跡では、縄文時代中期末～後期初頭の集落跡がみつっています。今回みつかった竪穴住居跡には、「複式炉」とよばれる炉があります。複式炉とは、本来は火を焚く部分(炉)が複数ある炉のことをいいます。今回の調査でみつっている複式炉は、火を焚く部分が1つしかありませんが、炉と作業場の2つの部分から構成されているため、複式炉の一形態と考えられています。



竪穴住居跡につくられた複式炉の作業場の脇から、石器を埋めている穴がみつかりました。一番上には石が2つおかれていて、その下を掘っていくと80点ほどの石器・石器作りの材料となる剥片・石器を作ったときに出土した破片が出土しました。

竪穴住居跡からは、赤色顔料の素材が埋められている穴もみつかりました。その横の穴には、赤色顔料と一緒に土器の破片が埋まっていた。



石をはずしてみると…



石器や剥片がたくさんでてきました！



【弥生時代の竪穴住居跡】

今回の調査では、弥生時代前期・中期の竪穴住居跡がみつかりました。

そのうち、弥生時代中期の竪穴住居跡はとて残りの良い状態で発見されました。直径約7mで、23畳ほどの広さがあります。

青森県内で、この時期の竪穴住居跡の発見例は少なく、弥生時代中期の人々の生活のようすを考えるうえで貴重な発見となりました。



弥生時代中期の竪穴住居跡 (S14 竪穴住居跡)

田代遺跡遺構配置図



SI4 竪穴住居跡（弥生時代中期）



SI8 竪穴住居跡（縄文時代中期末）



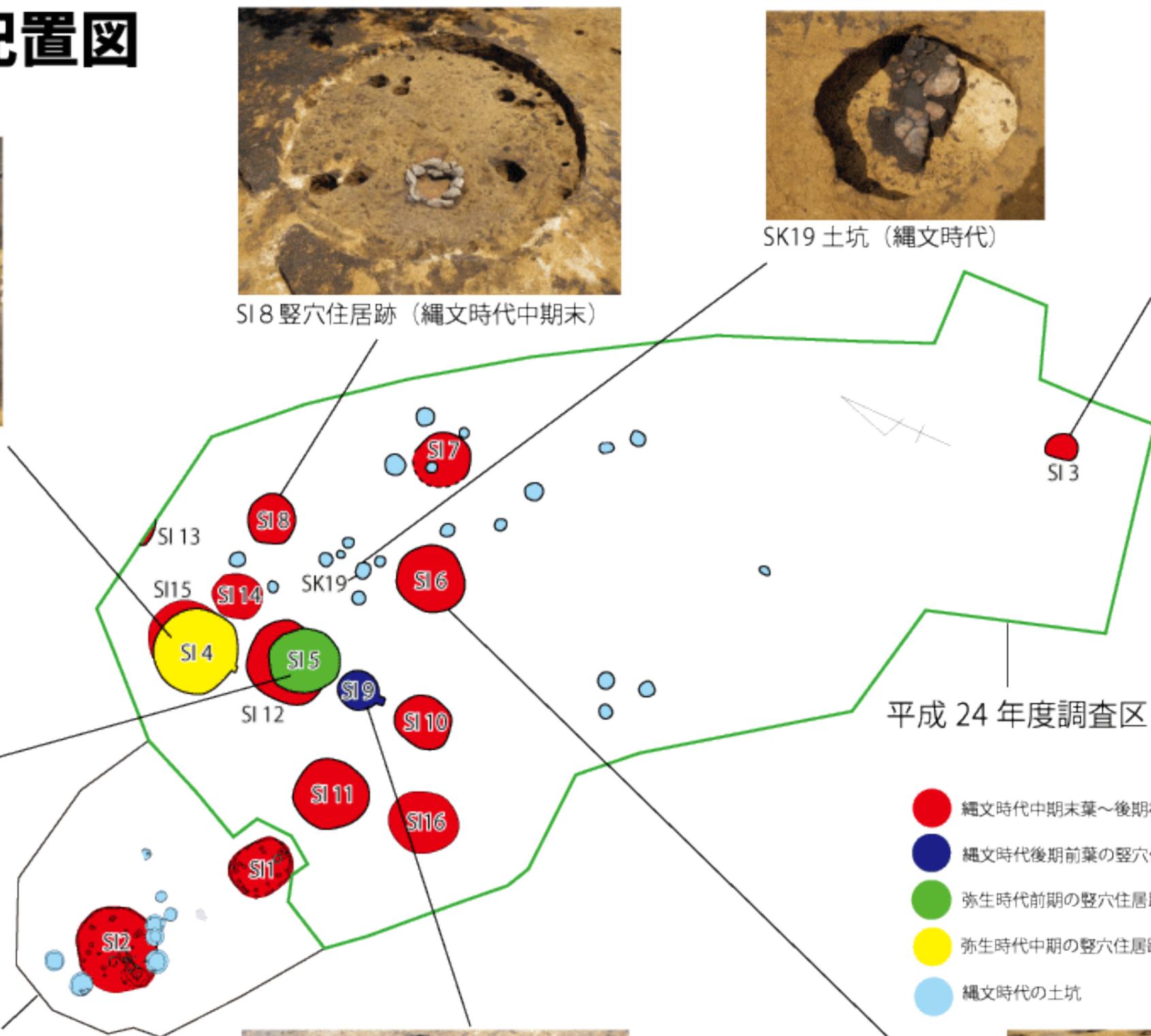
SK19 土坑（縄文時代）



SI3 竪穴住居跡（縄文時代中期末）



SI5 竪穴住居跡（弥生時代前期）



平成 24 年度調査区の概要（6/13 現在）
 調査面積：2700 m²
 竪穴住居跡：縄文時代中期末～後期初頭 11 棟
 縄文時代後期前葉 1 棟
 弥生時代前期 1 棟
 弥生時代中期 1 棟
 土坑：縄文時代 21 基
 柱穴：近世 多数
 遺物：縄文土器・弥生土器・石器・石製品
 陶磁器

平成 24 年度調査区

- 縄文時代中期末葉～後期初頭の竪穴住居跡
- 縄文時代後期前葉の竪穴住居跡
- 弥生時代前期の竪穴住居跡
- 弥生時代中期の竪穴住居跡
- 縄文時代の土坑

平成 23 年度調査区

平成 23 年度調査区の概要
 調査面積：約 400 m²
 竪穴住居跡：縄文時代中期末～後期初頭 2 棟
 土坑：縄文時代 8 基
 屋外炉：縄文時代 1 基
 遺物：縄文土器・石器



SI9 竪穴住居跡（縄文時代後期前葉） SI9 出土土器



SI6 竪穴住居跡（縄文時代中期末）